

『肥満と肝がんについての新しい話題』

肝臓川柳

『抗生剤 肥満の肝癌 抑制か?』



(抑制…よくせい…良くせい…良くするか?)

生活習慣病と“がん”との関わりが深く、肝がんでも重要な問題になっています。
糖尿病では糖尿病でない人に比べ2倍肝がんになり易いですし、
肥満であるだけでも肝がんが発生し易いと言われています。

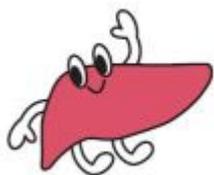
肥満と肝がんについて、
最近、肥満になると腸内で特定の細菌が増えて肝臓の細胞を老化させ、
肝がんを発生させるとの報告がありました。
肥満では、腸内細菌にグラム陽性菌が著明に増加し、
グラム陽性菌が胆汁のコール酸をデオキシコール酸 (DCA) に変換させ、
DCA が細胞 DNA を傷つけ老化を引き起こし発がんを促し、
抗生剤でグラム陽性菌を殺すと肝がん発生が減ったとのことです。

これらは全て実験での結果であり人間に当てはまるかどうかはこれからですが、
抗生剤で肝がんが減少する可能性が考えられるという大変興味ある話題でした。

文献 : S.Yoshimoto et al :

Obesity-induced gut microbial metabolite promotes liver cancer

through senescence secretome. (Nature 電子版 2013)



これだけ覚えておけば損はない!

今回のポイント

肥満になると腸内で特定の細菌が増えて肝臓の細胞を老化させ、
肝がんを発生させるとの報告がありました。

そこで抗生剤で特定の細菌を殺すと肝がん発生が減ったとのことです。

これらは実験での結果で人に当てはまるかは不明ですが、大変興味のある話題です。

(文 : 福井県肝疾患診療連携拠点病院運営委員会 野ツ俣 和夫)